

令和 8 年度

真岡市教育委員会
点検・評価報告書
(令和 7 年度対象)



真岡市教育委員会

はじめに

平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、平成20年4月1日から施行されました。

その中で教育委員会は、毎年、教育行政の事務の管理執行状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされました。

このため本市教育委員会においても、教育委員会の活動及び主たる取り組みを市民の皆様にご公表し、ご意見をお寄せいただくことで、より良い教育の実現を目指していきたいと考えています。

令和8年8月
真岡市教育委員会

目次

第1章	教育委員会活動	1
第2章	点検・評価結果	7
1.	確かな学力の育成	8
2.	心の教育と健やかな体づくり	10
3.	国際化に対応した教育	12
4.	生涯学習の推進	14
5.	青少年の健全育成	16
6.	生涯スポーツ・レクリエーションの振興	18
7.	文化芸術の振興と文化財の保護・継承	20

第1章 教育委員会活動

1 組織体制（令和7年4月1日現在、7課合計）

教育委員	教育長1人、職務代理者1人、委員3人
教育委員会 職員	教育次長1人 課長級以下職員 正規80人（指導主事等12人）、 会計年度任用職員44人 再任用 1人

2 委員会の活動概要

（1）委員会の会議

議案審議のための定例会を12回、協議会を1回開催しました。また、会議終了後、その時々話題について事務局職員（課長級以上）と意見交換を行いました。

定例会・教育委員協議会		議案件数	報告事項件数	その他
定例会	12回	38件	26件	20件
教育委員会協議会	1回	0件	3件	2件

教育委員会審議案件（令和7年度）

会議	議案番号	件名	審議期日
第4回	16	令和7年度真岡市奨学生の決定について	4月22日
	17	真岡市教育委員会会計年度任用職員の給与及び費用弁償の特例に関する規則の一部改正について	
	18	行政機構の改編に伴う関係教育委員会要綱の一部改正について	
	19	真岡市英語指導助手配置事業実施要綱の一部改正について	
第5回	20	真岡市教育支援センター設置要綱の制定について	5月20日
第6回	21	真岡市社会教育委員兼公民館運営審議会委員の委嘱について	6月20日
	22	真岡市図書館協議会委員の委嘱について	

	23	真岡市少年指導センター運営協議会委員の委嘱について	
	24	真岡市民会館運営審議会委員の委嘱について	
第7回	25	令和8年度使用教科用図書の採択について	7月24日
第8回	26	令和7年度真岡市一般会計補正予算について	8月22日
	27	真岡市運動場設置、管理及び使用条例等の一部改正について	
	28	真岡市総合運動公園の設置、管理及び使用条例の制定について	
	29	旧真岡市立第一学校給食センター解体整地の工事請負契約について	
第9回	30	真岡市教育委員会教育長職務代理者の指名について	10月1日
	31	第72回真岡市教育祭被表彰者の決定について	
第10回	32	真岡市図書館協議会委員の委嘱について	10月27日
第11回	33	令和7年度真岡市一般会計補正予算について	11月25日
	34	真岡市青年女性会館の設置、管理及び使用条例の廃止について	
	35	真岡市学校職員服務規程の一部改正について	
	36	真岡市就学指定校変更に関する事務取扱要綱の制定について	
第12回	37	真岡市立小・中学校管理規則の一部改正について	12月18日
令和8年 第1回	1	真岡市奨学金条例の一部改正について	1月26日
	2	真岡市総合運動公園の指定管理者の指定について	
第2回	3	令和8年度教育予算の要求について	2月18日

	4	真岡市立小・中学校管理規則の一部改正について	
第3回	5	真岡市視聴覚教材及び視聴覚機材貸出規則の廃止について	3月4日
	6	真岡市学校運営協議会規則の一部改正について	
	7	真岡市学校給食費管理規則の制定について	
	8	真岡市総合運動公園の設置、管理及び使用条例施行規則の制定について	
	9	真岡市総合体育館等の設置、管理及び使用条例施行規則等の一部改正について	
	10	真岡市小・中学校適正規模等検討委員会設置要綱の制定について	
	11	真岡市要保護及び準要保護就学援助費交付要綱の一部改正について	
	12	令和7年度真岡市一般会計補正予算について	
	13	真岡市少年指導員の委嘱について	
	14	真岡市文化財保護審議会委員の委嘱について	
	15	真岡市文化財調査員の委嘱について	
	16	真岡市スポーツ推進委員の委嘱について	

教育委員会報告案件（令和7年度）

会議	報告番号	件 名	報告期日
第4回	5	令和7年第1回真岡市議会定例会質疑・一般質問について	4月22日
	6	令和7年度自然教育センターの運営について	
第5回	7	令和7年度真岡市一般会計補正予算（専決処分）について	5月20日
	8	学校体育館等におけるスマートロックシステムの導入について	

第6回	9	令和7年第3回市議会定例会質疑・一般質問について	6月20日
	10	真岡市生涯学習推進会議委員の委嘱について	
	11	真岡市青少年問題協議会委員の委嘱について	
	12	子ども議会の開催について	
	13	自然教育センター夏休み親子宿泊体験事業について	
第7回	14	令和8年青年式～20歳の集い～式典日程について	7月24日
第8回	15	令和7年度（令和6年度対象）真岡市教育委員会点検・評価報告書について	8月22日
	16	電子黒板更新に係る令和7年度一般会計補正予算について	
	17	部活動地域展開に向けた休日の地域クラブ活動の開始について	
	18	学校適正配置事業に伴う地区懇談会の開催について	
	19	「もおかつ子」わくわくプレゼンコンテストの実施について	
第10回	23	真岡市地域公民館建設事業補助金交付要綱の一部改正について	10月27日
	24	第31回全国報徳サミット真岡市大会実行委員会の開催について	
第11回	25	令和7年度真岡市一般会計補正予算（専決処分）について	11月25日
	26	病弱児童に対する支援に伴う令和7年度真岡市一般会計補正予算について	
第12回	27	令和7年第5回真岡市議会定例会質疑・一般質問について	12月18日
	28	令和8年度真岡市奨学生募集要項について	
令和8年第2回	1	真岡市教育支援センター もおかライブラリー教室 真岡教室の移転について	2月18日
第3回	2	令和8年第2回市議会定例会質疑・一般質問について	3月4日

	3	真岡市小・中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について	
	4	校内教育支援センターの設置及び支援員の配置について	
	5	令和8年度部活動地域展開の取組について	

教育委員会協議会報告案件（令和7年度）

協議会	報告番号	件 名	報告期日
第1回	20	令和7年第4回真岡市議会定例会質疑・一般質問について	9月18日
	21	令和7年度 学力調査の結果について	
	22	真岡ハイトラ運動公園指定管理者募集について	

（2）総合教育会議

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、市長と教育委員会が相互の連携を図り、より一層の民意を反映した教育行政を推進するため、市長が主催する総合教育会議が設置されました。

回数	会 議 事 項	開催期日
1回	・部活動の地域展開について ・学校適正配置について	10月8日

（3）研修等

事業名	期 日	場 所	内 容
関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会・研修会	5月30日	長野県 長野市	・総会 ・研修会「次期学習指導要領に向けた検討について」 文科省初等中等教育局教育課程課長 武藤 久慶 氏 ・記念講演「深宇宙探査の要、信州～はやぶさ2とMMXの紹介～」 JAXA 国際宇宙探査センター火星衛星探査機プロジェクト主任研究開発員 澤田 弘崇 氏

芳賀市町教育委員会 連合会教育委員研修	10月14日	栃木県 宇都宮市	栃木県立特別支援学校宇都宮青葉 高等学園、宇都宮市教育センター 視察
------------------------	--------	-------------	--

(4) 教育委員の学校訪問

学校の現状や教職員の意見等を聴取し、教育行政の充実を図るため、合同訪問に教育委員も同行しました。

訪 問 校	期 日	内 容
大内中	5月29日	授業参観
真岡西小	7月2日	//
長田小	7月4日	//
久下田中	7月8日	//
真岡東中	10月2日	//
物部小	10月15日	//
大内西小	10月29日	//

(5) 教育委員の関係行事等への出席

期 日	主 な 行 事 等	備 考
4月1日	辞令交付式	
10月1日	市政功労者表彰式	
10月5日	真岡井頭マラソン大会	
11月18日	真岡市教育祭	
12月7日	「もおかっ子」わくわくプレゼンコンテスト	
1月11日	青年式－20歳の集い－	
3月31日	辞令交付式	

第2章 点検・評価結果

政策「人づくり」～豊かなこころアップ!～

施策

1. 確かな学力の育成 — 主管課：学校教育課 —
(関係課：デジタル戦略課)
2. 心の教育と健やかな体づくり — 主管課：学校教育課 —
(関係課：学校給食センター、自然教育センター)
3. 国際化に対応した教育 — 主管課：学校教育課 —
(関係課：生涯学習課、保育課)
4. 生涯学習の推進 — 主管課：生涯学習課 —
(関係課：文化課、スポーツ振興課、自然教育センター)
5. 青少年の健全育成 — 主管課：生涯学習課 —
(関係課：こども家庭課、学校教育課)
6. 生涯スポーツ・レクリエーションの振興 — 主管課：スポーツ振興課 —
(関係課：健康増進課、社会福祉課、高齢福祉課、生涯学習課、都市計画課)
7. 文化芸術の振興と文化財の保護・継承 — 主管課：文化課 —
(関係課：生涯学習課)

政策名	No	1	「人づくり」～豊かなこころアップ!～	主管課名	学校教育課		
施策名	No	1	確かな学力の育成	関連する SDGs・DX			
関係課名		学校教育課、デジタル戦略課					

1. 施策の目的と成果の把握（Plan）

施策の対象	市内の義務教育課程の児童生徒					
対象指標名	単位	7年度（実績）	8年度（実績）	9年度（実績）	10年度（実績）	11年度（実績）
児童生徒数	人	6,004				

施策の目指す未来	児童生徒の学力が向上しています。 教員の指導力が向上しています。					
施策の課題	・ 思考力、判断力、表現力等の育成 ・ 教員一人ひとりのICTを活用した指導力の向上 ・ 学校施設の適正な維持管理と安全性、快適性の確保 ・ コミュニティ・スクールの導入・活性化による学校・家庭・地域の連携強化 ・ 教職員の働き方改革の推進 ・ 社会的な自立に向けて発達段階に応じたキャリア教育の研究 ・ 児童生徒数の減少を踏まえた学校の適正配置を含めた在り方の検討					
施策の主な取組	1. 学校教育の充実と教員の指導力の向上：真岡市総合学力調査の結果を分析し、授業の改善につなげるとともに、学力向上推進研修会の実施や若手教員等を支援する研修等の充実を図る。 2. 教育環境の整備・充実：学校施設の適正な維持管理とICT 機器・ネットワーク環境の整備により、安全、快適、効果的・効率的な教育環境の整備・充実を図るとともに、児童生徒数の減少による学校の適正配置について検討する。 3. 学校・家庭・地域の連携強化：コミュニティ・スクールの全校導入により、学校・家庭・地域が連携・協働する体制を整備する。 4. 教職員の働き方改革の推進：教職員の負担を軽減し、子どもと向き合う時間を確保するため、学校の業務改善に関する取組を推進し、時間外労働時間の削減を図る。 5. キャリア教育の推進：社会的な自立に向けて、中学生リーダー研修、マイチャレンジ推進事業など、発達段階に応じたキャリア教育の推進に努める。					

成果指標名		単位	基準値	初年度からの実績値の比較					目標値
			R5	R7	R8	R9	R10	R11	R11
小5とちぎっ子学習状況調査における3教科合計平均正答率の 県との差（国語、算数、理科）	目標値	ポイント	+2.0	+2.0	+2.0	+2.0	+2.0	+2.0	+2.0
	実績値			+2.7					
中2とちぎっ子学習状況調査における5教科合計平均正答率の 県との差（国語、社会、理科、数学、英語）	目標値	ポイント	+1.4	+1.6	+1.7	+1.8	+1.9	+2.0	+2.0
	実績値			-0.4					
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								

2.施策の評価と分析（Check）

【1】成果指標の実績値に対する分析 成果指標の目標値と実績値を比較し分析してください。 ○小学5年生では、3教科の平均正答率において県との差が2.7ポイント増となり、目標値である+2.0を上回り、特に小学5年生の理科において大きく上回る（+3.9ポイント）結果となった。 真岡市の小学校全体の傾向として、どの教科も基本的な内容についての平均正答率が高く、また、基本的な内容を活用して解く応用問題の平均正答率も高い傾向にあり、児童に既習内容が定着していることがうかがえる。 ○中学2年生では、5教科合計平均正答率における県との差はマイナス0.4ポイントであった。昨年度（マイナス0.9）に比べ0.5ポイント回復したが、数学を除く4教科がマイナスであり、特に国語は、昨年度マイナス1.2ポイントからマイナス2.8ポイントと落ち込んだ。また、学校間での差が約20ポイントも開きがある教科（理科）もあり、学校間の差が顕著であった。 本市の中学校全体傾向として、基本的内容についての平均正答率は県と同等または高い傾向ある一方、記述式の問題や応用問題において正答率が低くなる傾向がみられた。
【2】評価 【1】で分析した結果、事業が対象にどのように作用したかを評価してください。 ○児童生徒の学力実態や課題、生活実態との関連等について調査研究し、分析したデータに基づき、各校が指導内容や方法の工夫改善を行うことを可能とし、児童生徒の「確かな学力の育成」に結びつけることができる。 ○授業内容を改善することにより、各教科の基礎基本が定着し、豊かな学力を養い、人間性豊かな子どもの育成につなげることができる。
【3】現状の問題点と今後の課題 【2】で評価した結果として、どのような課題が考えられるか具体的に記載してください。 ・学校訪問による授業指導などのフォローアップを行っているが、学力向上の取組強化は喫緊の課題であり、授業改善を図ることを継続し、基礎的な知識・技能を生かしてさらに活用する力の育成が課題である。 ・児童生徒の学力の実態について調査し、多角的に分析を行う必要がある。 ・更なる学力向上のため、教員が子どもと向き合う時間を確保し、教育の質を高める必要がある。
施策を取り巻く環境（社会情勢や国や県の動向などの外的要因） ・少子化に伴い、児童生徒数は年々減少しており、学びの環境を確保・整備するため、学校の適正配置について調査・研究をしていく必要がある。 ・教員が子どもと向き合う時間を確保することを目的に、働き方改革を進める必要がある。

3.施策の今後の方向性（Action）

【1】ただちに取り組むべきこと 【成果指標事業】 ○真岡市学力向上推進研修会 中学校の授業改善のため指導主事に関わる授業づくりを行い、各教科の担当者に共有を図る。 ○真岡市総合学力調査 CBT方式導入に向けた業者選定及び対象学年や教科を決定し、学力調査実施要領を策定する。 【その他施策推進事業】 ○学校の適正配置を含めたあり方検討 ○学校図書館司書の巡回配置 児童生徒によるおすすめの本の紹介カードの作成や学校図書館と私立図書館との連携に取り組み、読書と親しむ多様な機会を提供する。 ○コミュニティスクール 令和8年度に導入する小中学校（6校）に対し、生涯学習課と連携した支援を行う。 ○ICTを活用した学校教育の推進 児童・生徒用学習端末の更新および電子黒板の更新をデジタル戦略課と連携のうえ、計画的に完了する。
【2】長期的な計画で検討すること 【成果指標事業】 ○真岡市学力向上推進研修会 教員の授業改善を図り、児童生徒が自分に合った学習の仕方を選択するほか自分の学習を振り返るなど、「個別最適な学び」の実現を図る。 【その他施策推進事業】 ○教職員の業務改善に関する取り組みを推進し、時間外勤務を削減する。 ○学校図書館司書の巡回配置 学校図書館司書の配置人数を増やすなど、1校あたりの司書の活動時間を増やすことで児童生徒の読書活動の推進を図る。 ○コミュニティスクール 学校と地域が連携し実効性あるコミュニティスクールとして活動できるよう伴走支援していく。 ○ICTを活用した学校教育の推進 次世代校務支援システムにおける県域共同調達、校務系・学習系ネットワークの統合に関する調査、研究を進める。

政策名	No	1	「人づくり」～豊かなこころアップ!～	主管課名	学校教育課		
施策名	No	2	心の教育と健やかな体づくり	関連する SDGs・DX			
関係課名	学校教育課、給食センター、自然教育センター						

1. 施策の目的と成果の把握（Plan）

施策の対象	市内の義務教育課程の児童生徒					
対象指標名	単位	7年度（実績）	8年度（実績）	9年度（実績）	10年度（実績）	11年度（実績）
児童生徒数	人	6, 004				

施策の目指す未来	児童生徒に、生命や人権を尊重する、人を思いやる心や豊かな心が育まれています。 児童生徒の、基礎体力や運動能力が向上しています。								
施策の課題	・生命を大切に作る心、他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識等の道德性の育成 ・子どもたちの悩みや不登校児童生徒への対応 ・運動機会の確保 ・特別支援教育における一人ひとりの教育的なニーズに応じた支援の提供 ・望ましい食習慣の形成、食物アレルギーを持つ児童生徒への適切な対応 ・部活動の地域移行に向けての取組の推進								
施策の主な取組	1. 情操と道德性の育成：道德性を育成するため、授業を推進し教員に対する研修を行う。集団活動や宿泊学習などの体験活動の充実を図る。 2. 教育相談の充実と不登校児童生徒への支援：児童・生徒指導や相談体制充実のため、教育相談員等を適切に配置するとともに、「もおかライブラリー教室」における効果的な支援を行う。 3. 特別支援教育の充実：心理相談員や特別支援教育アドバイザーの派遣を行う。 4. 運動習慣・生活習慣の定着化：基礎体力や運動能力を向上させるため、学校や家庭での運動習慣の定着化を目指す。 5. 安全安心な給食の提供と食育の推進：詳細な献立表の配布や除去食の提供、教職員への緊急時の対応研修の実施などに努める。給食時や学級活動において、学校栄養教諭等による食育を進める。 6. 学校部活動の地域移行に向けた取組の推進：地域人材活用として部活動指導員の配置を進めるほか、地域クラブ活動へ移行していく。								
成果指標名			基準値	初年度からの実績値の比較					目標値
		単位	R5	R7	R8	R9	R10	R11	R11
周りに認められていると感じている児童・生徒の割合	目標値	%	91. 2	92. 46	93. 09	93. 72	94. 35	95. 0	95. 0
	実績値			92. 8					
全国体力・運動能力、生活習慣等調査における体力合計点（80 点満点）	目標値	点	50. 0	50. 82	51. 23	51. 64	52. 05	52. 5	52. 5
	実績値			50. 7					
全国体力・運動能力、生活習慣等調査におけるアンケート「運動が好き」と答えた児童生徒の割合	目標値	%	79. 5	83. 0	83. 0	83. 0	83. 0	83. 0	83. 0
	実績値			87. 57					
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								

2. 施策の評価と分析 (Check)

【1】成果指標の実績値に対する分析 成果指標の目標値と実績値を比較し分析してください。 ○WEBQU 結果（1 回目＝R7/5 月実施、2 回目＝R7/10 月実施）から、小学校においては、児童間や学級内で承認されていると児童が感じる「親和型」と、担任の話をよく聞き決まりやルールを守ることができている「かたさ」学級の割合が増え、児童 1 人 1 人にとって教室が安全で、居心地の良い場所になりつつあり、学びに向かう学級集団への成長過程であると考えられる。 一方、中学 1・2 年生では、規律やルールが浸透しにくいと位置付けられる「ゆるみ型」学級が約 6 割を占め、「かたさ型」学級の少なさが特徴であるが、中学 3 年生では、2 回目の結果が 1 回目と比較し、「親和型」は 5 ポイント、「かたさ」は 9 ポイントそれぞれ増加し、充実した学校生活が送れるようになったことがうかがえる。 ○「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」において、全国平均を上回る種目は小 5 男女では「長座体前屈」を除く 7 種目、中 2 男子では 3 種目、中 2 女子では「上体起こし」を除く 7 種目であった。 全国平均値に対する相対的位置を示す T 得点では、小 5 男子や中 2 女子は「ほぼ全国並み」以上にすべての種目が位置付けられた。中 2 男子では「反復横跳び」「長座体前屈」でよい結果であった。課題は、小学校では「長座体前屈」、中学校では「ボール投げ」と「上体起こし」であった。 実技 8 種目を各 10 点満点で表したものの合計点である「体力合計点」では、R7 年度、小 5 女子（最高記録）、中 2 女子（最高記録に迫る）が全国平均を上回っているが、中 2 男子は、0.69 ポイント下回る結果であった。 R6 と R7 のボール投げの結果を比較した場合、多くの学年で伸びていることが確認できた。各校での取り組みや体力ジャンプアップ月間の確実な実施が結果につながったと考える。 【参考】 ○「WEBQU」とは、児童生徒の状態を多角的に知ることができるアンケートツール。いじめや不登校児童生徒の早期発見、学校生活満足度を把握するなど、学級や個人の状態を可視化できる。 ○令和 6 年度と同様に、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の課題である柔軟性と走力、投力のうち、投力に力を入れる 3 年計画のうち 2 年目を迎える。投力に特化した真岡市第 2 回新体力テストを今年度も実施。 ○日常的に体を動かすことの楽しさが感じられるように「真岡市チャレンジカード」を配布し、体を動かす習慣をつくり、課題改善につながるようにしてきた。小中学校では、「学級対抗長縄 8 の字跳びにチャレンジ『8 の字もおかぴょん』」を実施。
【2】評価 【1】で分析した結果、事業が対象にどのように作用したかを評価してください。 ○WEBQU 結果を踏まえ、児童生徒・学級の現状を分析することができ、教員が学級経営・指導に活かすことにつながる。 ○「真岡市体力向上プログラム」と「真岡市チャレンジカード」の活用、各校での取り組み、ジャンプアップ月間の確実な実施が体力向上につながる。
【3】現状の問題点と今後の課題 【2】で評価した結果や予算上の課題も含め、どのような課題が考えられるか具体的に記載してください。 ○中学校の前年度比における「親和型」学級と「かたさ」学級の減少（「親和」R6：1 回目 49％／2 回目 42％ R7：1 回目 42.7％／2 回目 44.8％ 「かたさ」R6：1 回目 11％／2 回目 15％ R7：1 回目 4.4％／2 回目 7.5％）と「ゆるみ」学級の増加（R6：1 回目 37％／2 回目 39％ R7：1 回目 48.5％／2 回目 44.8％）傾向を受け、新規不登校出現率は中学 1・2 年生が高い傾向にあることから、教室に自分の居場所を見出せないことが原因となり、不登校になってしまう生徒を出さないために「ゆるみ型」や「不安定型」の学級は、特にルールやきまりを生徒と一緒に丁寧に決め、規律ある行動ができる学級集団を作っていく必要がある。指導の機会を見逃さずに学級ヘルールを定着させ、学びの集団となるよう支援する必要がある。 ○「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」から、小学校は「長座体前屈」、中学校が「ボール投げ」と「上体起こし」が課題である。
施策を取り巻く環境（社会情勢や国や県の動向などの外的要因） ○配慮を要する児童・生徒の割合が年々増加している。 ○特別支援学級への教育支援員の配置基準（義務教育標準法に基づき定められた栃木県教育委員会における特別支援学級担当教員の配置基準＝中学校では 2 学級以上になると学級数よりも 1 名多く配置され、小学校においてはその加配はない）の見直しが求められる。 ○経験が浅い特別支援学級担当の指導力向上 ○発達障がいやその疑いのある児童生徒が普通学級に多数在籍しており、学校長から増員要請が出されているが、学校が求める人数の支援員を配置することが財政上難しい。 ○特別支援教育アドバイザー訪問要請への要望は、小学校に比べ中学校は少ない。

3. 施策の今後の方向性 (Action)

【1】ただちに取り組むべきこと 【成果指標事業】 ○継続的に WEBQU を実施し（年 2 回）、学級集団の型を認識、学級経営に反映する。 ○投力の向上 3 年目計画（小学校のソフトボール投げ、中学校のハンドボール投げ）を実施し、投力の向上を図る。 ○「真岡市体力向上プログラム」の内容を更新して、運動好きな児童生徒を増やし、柔軟性と走力、投力の課題解決につなげていく。そのために、真岡市体力向上推進委員会（年 2 回）を開催。また、小中学校では「体力推進アップシート」を活用した体力向上の取組を推進する。 【施策推進事業】 ○特別支援教育アドバイザーと連携のうえ学校訪問等により学校の現状を把握する。また、引き続き県へ特別支援学級の配置基準の見直しについて要望する。 ○特別支援学級担当者の指導力向上に資する支援を行う。 ○中学校 1 年生の不登校の抑制として、小学校から不登校傾向にある生徒や行き渋りを見せ始めた中学 1 年生が校内教育支援センターで過ごせるよう、緩やかに学級復帰や学校復帰を目指すことで不登校生徒の抑制につなげる。
【2】長期的な計画で検討すること 【成果指標事業】 ○全国体力・運動能力・運動習慣等調査において、全国平均と同等以上の結果を継続的に残す。 【施策推進事業】 ○特別支援教育支援員のみならず、学校全体で支援が必要な児童生徒への対応方法について共通理解を図る。 ○通常学級に所属する配慮を要する児童生徒への適切な支援について、通常学級担任への理解を深める。 ○不登校児童生徒の削減として、中学 1 年生だけでなく中学 2、3 年生についても、校内教育支援センターに関わり、緩やかに学級復帰を目指す。小・中学校で配慮を要する児童生徒に対して、スクールソーシャルワーカーが働きかけ、もおかライブリー教室や校内教育支援センターへの関わりを促す。

政策名	No	1	「人づくり」～豊かなこころアップ!～	主管課名	学校教育課		
施策名	No	3	国際化に対応した教育	関連する SDGs・DX			
関係課名	学校教育課、生涯学習課、保育課						

1. 施策の目的と成果の把握（Plan）

施策の対象	市内の義務教育課程の児童生徒					
対象指標名	単位	7年度（実績）	8年度（実績）	9年度（実績）	10年度（実績）	11年度（実績）
児童生徒数	人	6,004				

施策の目指す未来	児童生徒が、国際的な視野を持ち、外国語でのコミュニケーション能力が身についています。 子どもたちが、幼児期から英語でコミュニケーションを図る楽しさを体験しています。 外国人児童生徒が、適切な支援を受けることができます。
施策の課題	・英語を用いたコミュニケーション能力の向上 ・教職員の英語指導力の向上 ・教育国際交流による児童生徒の異文化理解の促進と国際的な視野の育成 ・幼児期から英語に興味関心を持つための環境づくり ・外国人児童生徒の日本語能力の向上と、その保護者との連携及び支援
施策の主な取組	1. 英語教育の充実：外国語指導助手（ALT）を活用した英語授業の充実や生きた英語を学ぶことができるイングリッシュ・サマーキャンプへの参加、また英語検定の積極的受検等を促す。 2. 教員の指導力の向上：全小学校に英語指導力向上専門員を巡回配置するとともに、中学校英語科の全教員を対象とした研修の充実を図る。 3. 教育国際交流の推進：グローバル人材育成のため、全中学校において海外の姉妹校等との直接交流を実施するとともに、オンラインなど日常的な交流を実施する。 4. 幼児期の英語に触れ合う機会の提供：幼児期からの環境づくりに向け、保育所等において、ALTと共に学ぶ機会の提供や幼稚園等への独自プログラム実施の支援を進める。 5. 外国人児童生徒及び保護者への支援：外国人児童生徒のため日本語指導の充実や、進学に関する多言語での支援、面談時の通訳派遣や多言語による保護者連絡システムの効果的運用に努める。

成果指標名		単位	基準値	初年度からの実績値の比較					目標値
			R5	R7	R8	R9	R10	R11	R11
中 2 真岡市総合学力調査における英語の平均正答率の全国比 との差	目標値	ポイント	+2.6	+2.6	+2.6	+2.6	+2.6	+2.7	+2.7
	実績値			+1.8					
中 2 真岡市総合学力調査「外国の人々との交流などを通して、外国の異なる文化に対する理解を深めようとしている」と答え	目標値	%	68.8	69.2	69.4	69.6	69.8	70.0	70.0
	実績値			66.2					
英語に触れ合うことで、英語への興味関心がみられた幼児の割合	目標値	%	100	100	100	100	100	100	100
	実績値			100					
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								

2. 施策の評価と分析 (Check)

【1】成果指標の実績値に対する分析 成果指標の目標値と実績値を比較し分析してください。 ○真岡市総合学力調査 中2 英語の全国比 全体として全国平均を上回っており、英語の授業改善や生徒たちの学習習慣の定着による効果が表れたと考える。 今回調査時の中学2年生が中学1年時であったときの結果と比較した結果は0.7ポイントの増加であり、基礎問題正答率は1.2ポイント増加、応用問題正答率は0.7ポイントの減少であった。 昨年度と今年度の中学2年生同士の比較では、全体正答率は0.8ポイント増加、基礎問題正答率・応用問題正答率ともに0.9ポイント増加した。 ○真岡市総合学力調査「外国の人々との交流などを通して外国の異なる文化に対する理解を深めようとしている」と答えた中2生徒の割合は、令和5年度と比較すると2.6ポイント下がったが、全国平均(59.0%)を大きく上回っており、高い水準を維持している。真岡市が行っている教育国際交流事業や常勤配置されているALTとの積極的な関わりをもった英語授業の充実によるものと考ええる。 【参考】 ①イングリッシュサマーキャンプ事業 令和7年7月31日・8月1日 会場：真岡市自然教育センター 対象者：市内小学校5・6年生(70名×2日間) ②英語・漢字検定助成事業 英検・漢検を受験した際にそれぞれ年間1回検定料の半額を継続して補助 ③外国語指導助手配置事業 ALTを各学校に配置し、担当教諭と共にチームティーチングによる指導を実施 ・ALT：小学校7名 中学校9名 ・JTE：小学校6名(小学校1・2年生：年間10時間、小学校3年生：年間35時間) ④英語指導力向上専門員配置事業 市内全小学校へ巡回派遣を行い、担任及び補助教員(ALT)の授業の参観、指導ならびにパフォーマンステストの指導を実施(小学校14校 派遣時数970時間(1日5時間を基本)) ⑤国際交流事業 派遣・受入 ・真岡中：受入 ・真岡東中：派遣 ・真岡西中：大内中と合同で派遣 ・大内中：真岡西中と合同で派遣 ・中村中：派遣 ・山前中：グレンドーラガード中に真岡東中と合同で派遣 ・長沼、久下田、物部中学校：派遣
【2】評価 【1】で分析した結果、事業が対象にどのように作用したかを評価してください。 ○外国人との活動を通して、児童の英語力の向上や国際理解を推進を図ることで、児童の「外国人とのコミュニケーション能力の向上」に結びつく。 ○全小中学校にAETならびにJTEを配置することは、英語の学習効果を高めるとともに国際理解教育を推進するもので、児童の「外国人とのコミュニケーション能力の向上」に結びつく。 ○英語指導力向上専門員の巡回派遣は、小学校教員の英語指導力向上を図るもので、児童の「外国人とのコミュニケーション能力の向上」に結びつく。 ○異文化理解、国際感覚を養うことは、国際理解教育の推進という市の施策と結びつく。
【3】現状の問題点と今後の課題 【2】で評価した結果や予算上の課題も含め、どのような課題が考えられるか具体的に記載してください。 ○中学校英語科教員指導者研修(ブリティッシュカウンシル)の事業効果・検証を行う。 ○二宮地区3中学校とオーストラリアハーヴィー市 ハーヴィシニアハイスクールとの姉妹校締結に向けた相互交流を行うことで、さらなる国際理解と友好親善を図る。 ○山前中とアメリカコビーナ市 ロイヤルオークミドル中との友好的な交流が図れるよう調整を進めるなど、市内全ての中学校での直接交流を実現する。
施策を取り巻く環境(社会情勢や国や県の動向などの外的要因) ○教育国際交流に伴う渡航費等、諸費用の高騰が今後も懸念される。 ○生徒数が減少する中、コスト面を踏まえた教育国際交流の手法について他市の状況を把握するなど検討が必要である。

3. 施策の今後の方向性 (Action)

【1】ただちに取り組むべきこと ○中学校英語科教員指導者研修(ブリティッシュカウンシル)の効果検証 ○市内全ての中学校での直接交流を実現するため、各学校と姉妹校締結に向けた相互交流を支援する。 ○英語検定助成人数の推移を注視し、事業効果を検証する。
【2】長期的な計画で検討すること ○より多くの児童が外国人との活動を通して「生きた英語」を学び、英語によるコミュニケーション力を高められよう、事業の充実を図っていく。 ○小学校担任やALT、JTEの指導力向上のため、多様な経験を有する英語指導力向上専門員による効果的な指導を継続していく。 ○市内の生徒数が減少する中、コスト面を踏まえた教育国際交流の手法について他市状況の把握も含め検討する。 ○全校姉妹校締結に向けた取組の推進。

政策名	No	1	「人づくり」～豊かなこころアップ！～	主管課名	生涯学習課		
施策名	No	4	生涯学習の推進	関連する	  		
関係課名	文化課・スポーツ振興課・自然教育センター			SDGs・DX			

1. 施策の目的と成果の把握（Plan）

施策の対象	市民					
対象指標名	単位	7年度（実績）	8年度（実績）	9年度（実績）	10年度（実績）	11年度（実績）
人口	人	75,890			上昇	

施策の目指す未来	・市民が生涯にわたり自主的、積極的に学習や読書などに取り組んでいます。 ・ライフステージに応じた学びの場が確保され、地域ぐるみで学び、育ち合う体制が構築されています。								
施策の課題	・多種多様な分野にわたる生涯学習事業の推進 ・ライフステージに応じたニーズを反映した生涯学習機会の提供 ・各社会教育施設の計画的な維持管理 ・公民館を通じた地域住民の交流の推進と担い手の育成 ・すべての市民が生涯にわたって読書に親しむことができる環境づくり ・複合交流拠点施設「monaca」を生かした生涯学習の推進								
施策の主な取組	・多種多様な生涯学習の機会と活動の場の提供 ・生涯学習成果の活用とひとづくり ・地域ぐるみでの継続的な生涯学習の支援 ・公民館を通じた地域住民の交流やネットワークを生みだす支援 ・読書環境の充実 ・交流の拠点となる施設を生かした生涯学習ニーズへの対応								
成果指標名		単位	基準値	初年度からの実績値の比較					目標値
			R5	R7	R8	R9	R10	R11	R11
市民講座参加者の延べ人数	目標値	人	12,074	上昇	上昇	上昇	上昇	上昇	上昇
	実績値			23,321					
公民館事業参加人数（全館）	目標値	人	184317	上昇	上昇	上昇	上昇	上昇	上昇
	実績値			185931					
図書館の貸出延べ人数	目標値	人	68,102	上昇	上昇	上昇	上昇	上昇	上昇
	実績値			93,699					
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								

2.施策の評価と分析（Check）

【1】成果指標の実績値に対する分析 成果指標の目標値と実績値を比較し分析してください。 【市民講座参加者の延べ人数】 ・令和7年度には参加延人数は23,321人となり、目標値の約1.9倍となり着実に回復傾向がみられる。 （生涯学習課は市民講座、図書館は写真会やイベントなどの自主事業、文化課は歴史教室、クラシック音楽、美術館ギャラリートーク、スポーツ振興課はスポーツ教室、自然教育センターは高齢者研修を実施している。） 【公民館事業参加人数】 ・目標値と比較すると、1.37倍増加している。 【図書館の貸出延べ人数】 ・令和6年度にmonacaが開館したことにより施設利用者数が基準値より25,597人増加した。
【2】評価 【1】で分析した結果、事業が対象にどのように作用したかを評価してください。 【市民講座参加者の延べ人数】 ・市民の興味や関心のある講座を開講することで、利用者数も向上しており、市民講座が市民に浸透してきたと考えられる。講座数も増加傾向にある。 【公民館事業参加人数（全館）】 ・各分館や指定管理者が創意工夫を行い、魅力ある事業を実施していることから増加傾向にあると考えられる。 【図書館の貸出延べ人数】 ・monacaの開館以降、地域交流や子育て支援センターなどの事業、複合的な事業の展開やサードプレイスとしての居場所づくりとの相乗効果により図書館の利用者が増加していると考えられる。
【3】現状の問題点と今後の課題 【2】で評価した結果として、どのような課題が考えられるか具体的に記載してください。 【市民講座参加者の延べ人数】 ・市民ニーズに合った講座内容やその指導者の開拓 【公民館事業参加人数（全館）】 ・市民ニーズに合った生涯学習に繋がる事業の実施 【図書館の貸出延べ人数】 ・更に魅力ある二宮地区の図書館事業の実施
施策を取り巻く環境（社会情勢や国や県の動向などの外的要因） ・国では、人口減少・少子高齢化の進行、社会情勢の変化や多様化・複雑化する地域課題が顕著になっている。そのような状況において、心の豊かさや生きがいのための生涯学習の需要が増大するとともに、誰もが生涯にわたり学び続けられる社会の実現が求められている。2006年の教育基本法の改正により、第3条「生涯学習の理念」の新設。「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」とされ国の教育政策の基本理念として明確に位置けられた。 ・栃木県では、「栃木県生涯学習推進計画」（7期計画）2026～2030を策定し、「ともに学びあい、「自分」や「とちぎ」の未来を描くことができる人づくり」を基本目標に掲げ、基本施策1：必要な学びに誰もが参加できる機会をつくる、基本施策2：学びを通して人々のつながりをつくる、基本施策3：学んだ成果を生かして活躍できる機会をつくるの3つの基本施策を掲げ、さらに3つの基本施策を推進する基盤整備を進めている。

3.施策の今後の方向性（Action）

【1】ただちに取り組むべきこと 【多種多様な生涯学習の機会と活動の場の提供】 ・講座メニューについては、講師の確保を含め、参加者アンケートや他自治体の事例を研究するなどにより、時代と市民のニーズに合ったメニューを提供していく。 ・オンラインフォームの導入を行っていないものについては、導入を検討していく。 ・講座の周知については、ウィークリーニュースもおかやホームページ、SNSなどを活用して、効果的な広報を実施していく。 【公民館事業参加人数（全館）】 ・地域及び市民誰もが利用しやすい制度となるよう引き続き検討を続けていく。 ・ウィークリーニュースもおかやホームページ、SNSなどを活用して、効果的な広報を実施していく。 ・市民が気軽に参加できるよう、市民の多様なニーズに応えた新しいメニューを提供する。 【図書環境の充実】【交流の拠点となる施設を生かした生涯学習ニーズへの対応】 ・二宮図書館は、二宮地区の拠点図書館として、monacaと連携して、更なるサービスの向上を目指す。 ・monacaを活用し、指定管理者と連携して、図書のディスプレイや特設コーナー及び関連イベントを開催し、図書の貸出が増えるような取組を行う。 ・すべての市民が生涯にわたって読書に親むことができる環境づくりのため、「読書推進計画」に基づく各年代に応じた取組みの推進。
【2】長期的な計画で検討すること 【生涯学習成果の活用と人づくり】 ・受講後、消費的な学習（学んで楽しかったという感想だけで終わり）ではなく、具体的な行動変容や成果活用の取組など、今後の学習と実践（取組）をつなぐ働きかけ、仕掛けを設けていく。（学んだことを地域で活かすことができる環境整備） 【公民館を通じた地域住民の交流やネットワークを生み出す支援】 ・各分館の施設や機能のあり方の検討 【地域ぐるみでの継続的な生涯学習の支援】 ・人口減少や雇用期間の延長など、社会の実情に合わせて、地域活性化につながる各事業を検討

政策名	No	1	「人づくり」～豊かなこころアップ!～	主管課名	生涯学習課		
施策名	No	5	青少年の健全育成	関連する SDGs・DX			
関係課名	学校教育課・こども家庭課						

1. 施策の目的と成果の把握（Plan）

施策の対象	市民の未成年（20歳未満の市民）（各年4月1日住基）					
対象指標名	単位	7年度（実績）	8年度（実績）	9年度（実績）	10年度（実績）	11年度（実績）
市民の未成年（20歳未満の市民）	人	12,800				

施策の目指す未来	・地域・家庭・学校が一体となって青少年を育てる環境が整備されています。 ・青少年が将来に夢や希望を持ち、心豊かにたくましく成長しています。							
施策の課題	・地域、家庭、学校、行政等が一体となって子どもたちを見守っていく環境の整備 ・青少年の安全・安心な居場所づくりの推進 ・次代の担い手となる人材の育成							
施策の主な取組	・青少年を見守り指導していく体制の強化 ・子ども会・育成会活動等の活発化 ・地域・家庭・学校等が一体となった健全育成の環境整備 ・多様な分野でリーダーシップを発揮できる人材の育成							
成果指標名		単位	基準値	初年度からの実績値の比較				目標値
			R5	R7	R8	R9	R10	R11
将来の夢や目標を持っている青少年の割合	目標値	%	77.3	上昇	上昇	上昇	上昇	上昇
	実績値			80.3				
子ども会育成会に関する事業や青少年健全育成に関する事業への参加者	目標値	人	2,918	2,935	2,952	2,968	2,984	3,000
	実績値			3,028				
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							
	目標値							
	実績値							

2.施策の評価と分析（Check）

【1】成果指標の実績値に対する分析 成果指標の目標値と実績値を比較し分析してください。 【将来の夢や目標を持っている青少年の割合】 ・基準年と比較すると、3.7%で上昇傾向にある。 【子ども会育成会に関する事業や青少年健全育成に関する事業への参加者】 ・基準年と比較すると、110人増加している。
【2】評価 【1】で分析した結果、事業が対象にどのように作用したかを評価してください。 【将来の夢や目標を持っている青少年の割合】 ・地域・学校・家庭との連携により、青少年が安心して健やかに成長できる環境づくりがなされ、子どもたちが将来に対する夢や目標を持てていると考えられる。 【子ども会育成会に関する事業や青少年健全育成に関する事業への参加者】 ・子どもの数は年々減少傾向にあるが、各種事業内容や実施時期など参加しやすい事業となっており、人数が増加したと考えられる。
【3】現状の問題点と今後の課題 【2】で評価した結果として、どのような課題が考えられるか具体的に記載してください。 【将来の夢や目標を持っている青少年の割合】 ・小学生と中学生共に全国平均と比較すると、高い数値になっている（全国：小学生83.1% 中学生：67.5%、真岡市：86.2% 中学生：74.3%）。更に夢や目標を持ち続けられるような環境づくりを進める必要がある。 【子ども会育成会に関する事業や青少年健全育成に関する事業への参加者】 ・少子化に伴い、参加者の減少が見込まれる。今後も参加しやすい事業等を実施するとともに、団体組織や事業の在り方について検討する必要がある。
施策を取り巻く環境（社会情勢や国や県の動向などの外的要因） ・国では全てのこども・若者が自らの居場所を得て、成長・活躍できる社会の実現に向け、こども・若者の意見表明や社会参画を促進しつつ、分野を超えて社会総掛かりで、こども・若者の育成・支援の取組を推進している。こども基本法に基づくこども大綱の下、全てのこども・若者が、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、ウェルビーイングで生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現を目指して、毎年具体的な取り組みをまとめた「こどもまんなか実行計画」を策定し、こども・若者に関する事業を展開している。 ・県では「とちぎ青少年プラン2026-2030」を策定し、基本目標に「心豊かでたくましい とちぎの青少年育成」を掲げ、「すべての青少年の健全育成と自立の促進」「困難を抱える青少年やその家族への支援の充実」「青少年の健全な成長を社会全体で支える環境整備」の3つを施策の柱としている。また県では、栃木県青少年健全育成県民会議や青少年育成市町村民会議等と連携し、青少年健全育成県民運動「とちぎ心のスクラム県民運動」をオールとちぎで展開している。

3.施策の今後の方向性（Action）

【1】ただちに取り組むべきこと 【地域、家庭、学校、行政等が一体となって子どもたちを見守っていく環境の整備】 ・子どもたちの安全な居場所づくりとして、放課後子ども教室の安定運営を図る。 【青少年を見守り指導していく体制の強化】 ・青少年の健全育成や非行防止を図るため、社会状況に即した見守り環境づくりを進める。（SNSによる犯罪被害やトラブルの防止などの周知・啓発事業）
【2】長期的な計画で検討すること 【多様な分野でリーダーシップを発揮できる人材の育成】 ・各種団体の活動を支援し、自主的な活動ができるリーダーを育成につながる事業を継続する。 【子ども会・育成会活動の活発化】 ・R7年度アンケート結果に基づく、子ども会育成会の在り方（統合等）を検討する。（統合による課題や今後の活動など）

政策名	No	1	「人づくり」～豊かなこころアップ!～	主管課名	スポーツ振興課		
施策名	No	6	生涯スポーツ・レクリエーションの振興	関連する SDGs・DX	 		
関係課名	健康増進課、社会福祉課、高齢福祉課、生涯学習課、都市計画課						

1. 施策の目的と成果の把握（Plan）

施策の対象	市民					
対象指標名	単位	7年度（実績）	8年度（実績）	9年度（実績）	10年度（実績）	11年度（実績）
人口	人	76,489				

施策の目指す未来	「市民ひとり1スポーツ」が定着しています。								
施策の課題	・多くの市民が取り組める運動機会の創出 ・生涯スポーツを通じた世代間の交流や生きがい ・スポーツを通じた地域活動の推進 ・幅広いニーズに応じたスポーツ環境の整備 ・継続して安全にスポーツを楽しめる施設の維持管理 ・競技スポーツの発展・競技力向上 ・障がい者スポーツの普及・理解の促進								
施策の主な取組	・スポーツに触れる機会の充実 ・地域の活性化につながるスポーツ活動の推進 ・スポーツ環境の整備 ・競技スポーツ活動の支援 ・障がい者スポーツの普及・振興								
成果指標名		単位	基準値	初年度からの実績値の比較					目標値
			R5	R7	R8	R9	R10	R11	R11
市のスポーツ施設利用者 延べ人数	目標値	人	554,738	576,492	587,369	598,246	609,123	620,000	620,000
	実績値			591,383					
何らかのスポーツ・レクリ エーションを行っている市 民の割合	目標値	%	59.1	61.0	62.0	63.0	64.0	65.0	65.0
	実績値			62.6					
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								

2.施策の評価と分析（Check）

【1】 成果指標の実績値に対する分析 成果指標の目標値と実績値を比較し分析してください。 市スポーツ施設の利用者延べ人数及びスポーツ・レクリエーションを行っている人数の割合は、令和7年度目標値を上回っている。 施設利用者延べ人数 令和6年度 530,788人 令和7年度 591,383人 60,595人増 スポーツ・レクリエーションを行っている人の割合 令和6年度 59.1% 令和7年度 62.6% 3.5ポイント増
【2】 評価 【1】 で分析した結果、事業が対象にどのように作用したかを評価してください。 施設利用者の増加については、総合運動公園の施設整備が進み利用者が増えたことが大きな要因である。 特に令和7年度は、市民球場が完成したため大会などが多く開催され、利用者数が増えたことやスポーツ教室にニュースポーツの教室を推進したことにより、体育施設の延べ利用者数とスポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合が上昇した。
【3】 現状の問題点と今後の課題 【2】 で評価した結果として、どのような課題が考えられるか具体的に記載してください。 体育施設には、建築から50年以上経過しているものもあり、改修や修繕に係る費用が増大している。 また、ニュースポーツや障がい者が競技できるスポーツの指導者を見つけることが難しく、ニュースポーツなどの一部競技の普及が遅れている。
施策を取り巻く環境（社会情勢や国や県の動向などの外的要因） 人口減少や少子高齢化などの社会情勢の変化による競技人口の減少やニュースポーツなどの障がい者ができる競技の普及が求められている。 高齢者が体力づくりを目的とし日常的にグランドゴルフなどのニュースポーツやランニングなどを実施していることにより、一部の競技は競技人口が増加している。 高齢化社会において、手軽に始められるニュースポーツの普及が必要であることから、モルックやペタンクなどのニュースポーツの普及が求められている。

3.施策の今後の方向性（Action）

【1】 ただちに取り組むべきこと 総合運動公園を指定管理者に委託することから、利用者増加のため指定管理者と連携した事業展開を実施する。 良好な体育環境を安定して提供するため、老朽化している施設の適切な更新と維持管理を実施する。 老朽化や利用率の低い体育施設について、廃止等を含めた統廃合の検討を実施する。 アーバンスポーツなどの新たなスポーツができる施設整備を順次進めていく。 高齢者や障がい者などは気軽に始めることのできるニュースポーツの推進を図るため、指導者の育成を 図っていく。
【2】 長期的な計画で検討すること 年数の経過とともに体育施設が老朽化していることから、長期的な視点で修繕計画を策定していく必要がある。 人口の動向に合わせた適正な体育施設数を維持していく必要がある。 スポーツ推進のため、スポーツを指導できるスポーツ推進員などの指導者を継続的に育成していく必要がある。

政策名	No	1	「人づくり」～豊かなこころアップ!～	主管課名	文化課	
施策名	No	7	文化芸術の振興と文化財の保護・継承	関連する SDGs・DX		
関係課名	生涯学習課					

1. 施策の目的と成果の把握（Plan）

施策の対象	1）市民 2）文化財の管理者・継承団体等					
対象指標名	単位	7年度（実績）	8年度（実績）	9年度（実績）	10年度（実績）	11年度（実績）
人口	人	75,890			上昇	
指定・登録文化財	件	226			上昇	

施策の目指す未来	・だれもが文化芸術に触れることができます。 ・文化芸術を担う人材が育成されています。 ・文化財が適切に保存・管理・継承され、活用されています。 ・市民が郷土の歴史に関心を持っています。								
施策の課題	・ 伝統文化や文化芸術活動を担う人材の育成 ・ 時代や多様なニーズに対応する、デジタル技術等の専門性や多角的な視点の導入 ・ 文化芸術施設の適切な維持管理と認知度の向上 ・ 市民の郷土の歴史に対する関心や地域の文化財を主体的に保護・継承する意識の醸成 ・ 市の文化財の歴史的背景やストーリーの発信、利活用の拡充								
施策の主な取組	・ 文化芸術に触れる機会の充実：市民の文化芸術の鑑賞・体験機会や学習機会の充実を図るため、真岡市民会館及び美術館等において魅力ある文化芸術事業や企画展等の開催に努める。市民会館においてオンライン配信等が可能な環境の整備に努める。文化芸術施設の適切な維持管理に努める。 ・ 伝統文化、文化芸術の担い手の育成・支援：真岡市の文化芸術活動や地域で育まれた伝統文化を将来にわたり継承していくため、真岡市ゆかりのアーティストや団体の登録制度の導入を検討するとともに、無形文化財後継者の育成等の支援に努める。 ・ 文化協会加入団体への支援：市文化協会に加入する各団体が行う活動への支援を充実し、自主的かつ活発な文化芸術活動が行える土壌づくりに努める。 ・ 文化財の保護・継承対策：市内の指定文化財の保存管理を適切に行えるよう、保持者に対する助言と支援を実施するとともに、地域に潜在する学術的な価値の高い歴史文化資源を、文化財の指定につなげていく。市民の文化財保護の意識を醸成するため、文化財めぐりや歴史教室など、郷土の歴史に触れる機会を提供する。 ・ 文化財施設の活用：市内各所に存在する文化財の歴史的価値や魅力を広めるため、ウェブサイトを活用した情報発信を強化する。岡部記念館「金鈴荘」や久保講堂及び国指定史跡桜町陣屋跡など、市の文化財について幅広い利活用方策を検討する。								
成果指標名		単位	基準値	初年度からの実績値の比較					目標値
			R5	R7	R8	R9	R10	R11	R11
市民会館利用人数	目標値	人	74,245	79,000	81,460	83,920	86,380	89,000	89,000
	実績値			77,008					
美術館入館者数	目標値	人	16,289	17,360	17,895	18,430	18,965	19,500	19,500
	実績値			14,131					
久保講堂の活用件数	目標値	件	19	21	23	25	27	30	30
	実績値			18					
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								
	目標値								
	実績値								

2.施策の評価と分析（Check）

【1】 成果指標の実績値に対する分析 成果指標の目標値と実績値を比較し分析してください。 【市民会館利用者数】 コロナ禍で利用者が激減した令和２年度以降、利用者は増加傾向にある。令和７年度の実績は77,008人であり、市制施行70周年イベントが開催された令和6年度からは減少したが、市民会館の自主事業及び芸術鑑賞会の映画会での集客が好調であったことなどにより、令和11年度目標に対して86.5%となっている。 【美術館入館者数（久保記念館、まとかど美術館）】 令和７年度の実績は14,131人であり、令和５年度をピークに若干減少傾向となっている。令和11年度目標に対する割合は72.5%で、目標から乖離している。また、例年と比べて７月から８月の落ち込みが大きく、市民ギャラリーの貸し出しについても、夏場の利用が少なくなっている。 【久保講堂の活用件数】 令和７年度の件数は１８件であり、前年度比較で１件少ない結果となった。新規に利用を希望する問い合わせはあるが、利用条件や開催時期などの条件で折り合わない場合もあり件数増加には至らなかった。設備面では、展示パネルを移動しやすいキャスター付きのものに順次更新するなど、利便性向上を図っている。
【2】 評価 【1】で分析した結果、事業が対象にどのように作用したかを評価してください。 市民会館は、様々な分野の芸術文化を鑑賞・体験できる拠点施設として、令和２年度から指定管理者制度を導入しており、民間事業者のノウハウを活用した多彩な自主事業を展開するとともに、芸術鑑賞会の映画会を年７回開催している。設備面では、冷暖房に支障がある劣化した地下水ポンプを令和７年度に更新し、空調運転の安定化を図った。 美術館においては、年間を通じて企画展を開催し、ホームページやSNSで情報発信している。学芸員が作品を解説するギャラリートークツアーなど来場者からは高評価をいただいているが、入館者数としては思うように伸びない状況にある。 久保講堂では、一昨年から、常設パネルを撤去することで開放的な空間をすぐに利用できるように運用方法を見直した。空調設備がないこともあり、夏場の利用が少ない状況にある。
【3】 現状の問題点と今後の課題 【2】で評価した結果として、どのような課題が考えられるか具体的に記載してください。 【市民会館】 指定管理者と連携し、市民が文化芸術に触れる機会を数多く提供する。施設の維持管理においては、社会教育施設長寿命化計画を踏まえ、計画的な設備の更新を実施していく必要がある。 【美術館（久保記念館、まとかど美術館）】 展示内容を工夫し、魅力ある企画展を開催することで、入館者増につなげる。 【久保講堂】 新規の利用者を確保するとともに、設備の改修により利便性を高めることが課題となっている。
施策を取り巻く環境（社会情勢や国や県の動向などの外的要因） ・ 近年は猛暑の影響から、７～８月にかけては美術館入館者及び久保講堂の利用件数が減少している。 ・ 趣味、趣向が多様化するなか、市民が文化芸術に触れる機会の充実や文化芸術活動への支援が求められている。 ・ デジタルメディアの普及などにより、会場に行かなくても文化芸術を鑑賞できる機会が増えている。 ・ 地域固有の文化財については、社会経済情勢の変化に伴い、それらを維持・継承することが難しくなってきている。

3.施策の今後の方向性（Action）

【1】 ただちに取り組むべきこと 美術館に関しては、一般財産法人「地域創造」と連携し、久保貞次郎氏の美術品コレクションについて共同巡回展を開催することで、全国に広く周知するとともに、本市への来訪者及び美術館来場者の増加を図る。 市民会館については、設備点検による不具合を遅滞なく修繕し、故障を未然に防ぐ。自主事業では、幅広いジャンルから集客力のある公演を開催する。 久保講堂については、キャスター付き展示パネルへの入れ替え、トイレの洋式化など設備の更新を実施していく。
【2】 長期的な計画で検討すること 市民会館については、現施設を長期にわたって使用するために、設備の更新など計画的な保全管理と改修費用の平準化、財源の確保等を検討する。 美術館については、入館者が落ち込む夏場の対策とともに、美術品を適切に保存管理していく方策を検討する。 久保講堂をはじめ、岡部記念館「金鈴荘」や国指定史跡「桜町陣屋跡」など市が所有する文化財を幅広く活用できるよう、使用条件の緩和・見直しを検討する。



真岡市荒町5191番地
真岡市教育委員会学校教育課
電 話 0285-83-8180
FAX 0285-83-4070